

成田市環境学習会

早春の成田山

晝間初枝（四街道市）

日 時：令和4年2月23日（水・祝）9:30～12:00 天気：晴れ

場 所：成田山公園

参加者：大人19名 子ども2名 計21名

担当指導員：金子、莊子、谷、晝間、水野 成田市環境計画課：3名

コロナ感染対策をとりながら、2年ぶりの成田山公園での観察会。春はまだ遠く風は冷たいながら久しぶりの公園散策、この時期ならではの出会いを期待して出発。

3班に分かれ、時間差をつけて表参道へ。成田の酒「長命泉」を仕込んだという地下水が湧き出る井戸を見たあと、路地に入り旧跡庭園経由で薬師堂へ。ここは、現存する最古の旧本堂であるが先を急ぐ人が多く訪れる人は少ない。参道を外れて脇道を進むと僧侶たちの学びの場である三学院が建ち並ぶ。巨木が神聖な雰囲気を漂わせている。

出世稻荷の先から成田山の全貌や遠く筑波山を望む。石段を下りて境内へ。前本堂である釈迦堂前ではお釈迦様にちなんで植栽されたシャラノキとボダイジュを観察。釈迦堂の周りを一巡、見事な彫刻の五百羅漢は一人ひとりのユーモラスな表情に引き込まれるようである。市川団十郎ゆかりの額堂前で歌舞伎と成田山の結びつきについて説明し、光明堂を左に見て庭園へ。足元に注意しながらゆっくり石段を下りると雄飛の滝の水音が豪快に響き渡る。まっすぐ落ちる白糸は美しく心が洗われるようである。周辺はコケやシダ植物が目立つ幻想的な光景が広がる。日本シダの会発祥の地の碑が近くにあるというが頷ける。池に沿って歩き、古木に着生するウメノキゴケやノキシノブなどここならではの自然環境と植物の関係を説明した。日当たりのよい斜面にある梅園は、今年の寒さから花は少なめ、皆さん納得して先へ進む。ヨウラクランやコウヨウザンのマツボックリは珍しさもあって興味津々だった。

書道美術館前で小休憩、水琴窟を楽しんだり、中国渡来の白松を観察したり…。在来の松との違いは、松葉が3本、樹皮は白っぽくまだら模様であること。道沿いのロウバイの花はそろそろ終わり、サンシュユは僅かに早く、自然は思い通りにはいかないのは当然ながら期待していただけに残念であった。例年、咲き始めているカワヅザクラの蕾もまだ固い。緩やかな坂を上がり、早咲きの紅梅や白梅の香り、見事な梅の枝ぶりを見ながら本堂脇へ下りて観察会を終えた。「今まで歩いているだけだったが新しい発見がたくさんあった。」との声、成田山の再発見をみんなで楽しんだひとときでした。



白松は3本の葉とまだらな樹皮



満開の梅の花の香り